

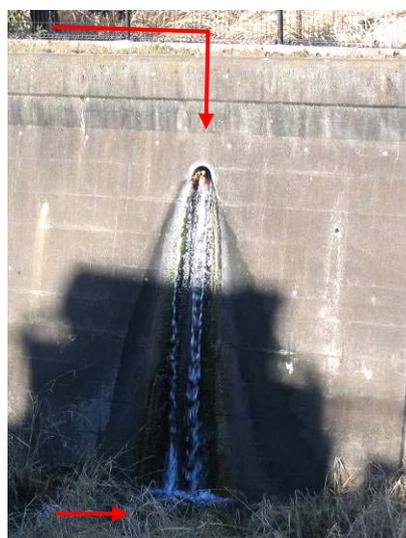
## 16 東京都 三鷹市

せんがわ  
仙川（丸池公園）

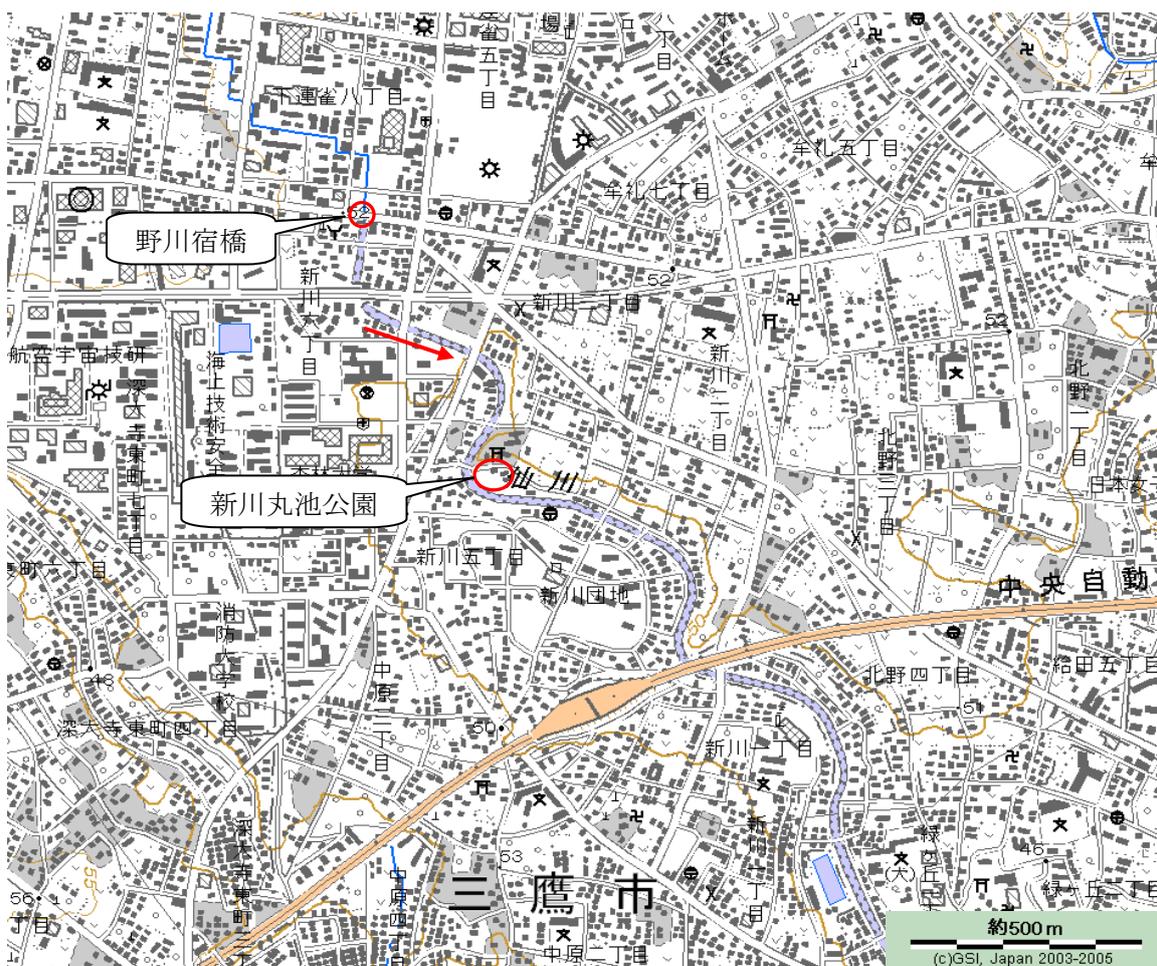
水源	導水方法	導水箇所	水環境上の問題
地下水・湧水	新規管路 動力	池・堀	水質汚濁・悪臭 親水性・景観



※地図中の破線枠は次ページの地図範囲



対象地域の概要	<p>・地域の概要</p> <p>三鷹市は、東京都のほぼ中央に位置し、東は杉並区、世田谷区の2区に、西は小金井市、南は調布市、北は武蔵野市にそれぞれ接しています。東西6.35km、南北5.24km、総面積は16.5km<sup>2</sup>です。</p> <p>東京の西郊に広がる武蔵野台地は、北西は入間川、北東は荒川、南は多摩川の沖積低地、そして東は東京低地によって界されたおよそ500km<sup>2</sup>にもおよぶわが国で最も大きな洪積台地の一つであり、三鷹市はこの武蔵野台地の中央部南端にあります。</p>
---------	---



<p>対象地域の概要</p>	<p>・対象水域の概要</p> <p>仙川は、小金井市貫井北町から武蔵野市を流れ三鷹市の西北部から中央部を経て東南部へと流下し、世田谷区鎌田で野川と合流後、多摩川に注いでいます。杏林大学病院・勝淵神社付近は、かつては広大な沼地や水田であり、川床のいたるところから湧水が湧き出し、その様子がいくつもの釜を伏せたように見えた（湯水の湧き出している部分を「釜」と呼びます）ことから、「干釜」と呼ばれ、この干釜という言葉が仙川の由来といわれています。</p> <p>丸池はこの仙川の源頭水源であったとの説が有力で、豊富な湧水を水源とする池でしたが、地下水位の低下によって枯渇し、埋め立てられていました。新川丸池公園の丸池はこれを復元したものです。丸池に導水された地下水は、公園内の池を流下し、一部は循環利用され、残りは仙川へ流下します。</p> <p>・水環境上の問題：<u>水質の悪化・悪臭</u>、生態系悪影響、<u>親水性・景観</u></p> <p>仙川の治水工事による河床の掘り下げで地下水位が低下し、丸池の水源であった湧水も枯渇し、水位も急激に低下しました。これに伴い、水質の悪化、不法投棄、悪臭の問題が発生するようになりました。問題発生当初は環境用水の導水ではなく、埋め立てという対応を選択し、丸池は姿を消しました。</p> <p>ところが昭和50年代に入って、コミュニティカルテを住民協議会が中心となり作成した際、丸池の復活の構想が出されました。</p>
<p>目標</p>	<p>ワークショップで策定された計画の実現という目標が定性的な目標です。丸池の復活自体はすでに一期工事で達成していますが、丸池公園の整備は平成18年3月、二期工事が終了し一定の整備が整いました。今後も引き続き「三鷹市緑と水の基本計画」（平成17年6月確定）に基づき、目標の達成に向けた努力をしていきます。</p> <p>定量的な目標は設定していません。</p>
<p>導水開始</p>	<p>平成14年</p>

水源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水源 地下水</li> <li>・他の水源 なし</li> </ul>
導水量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導水量 30 m<sup>3</sup>/day×3基 平成17年度実績 79 m<sup>3</sup>/day（3基）</li> <li>・理由 東京都環境確保条例による規制の上限である 30 m<sup>3</sup>/day を常時導水しています。循環ポンプも設置しています。</li> </ul>
方導水	既設の井戸に揚水ポンプを新たに設置し、地下水を揚水しています。また 複数地点より自然の湧水が湧き出ているかのように導水しています。
諸施設	新規設備：揚水ポンプ 既存設備：浅井戸 導水距離：25m
費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用 ＜初期費用＞9,000 千円 　＜維持費用＞700 千円</li> <li>・内訳 ＜初期費用＞ 導水に係る費用は、揚水ポンプと各湧き出し口までの送水管の設置のみであるため、100～200万円程度であると思われます。</li> <li>・負担主体 ＜初期費用＞ 三鷹市 ＜維持費用＞ 三鷹市</li> <li>・補助 なし</li> </ul>
運用状況	常時一定水量を導水しています。
関係主体との調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調整内容 昭和50年代に入って、コミュニティカルテを住民協議会を中心に作成した際、丸池の復活の構想が出されました。 第一回ワークショップを開催し、整備計画の作成段階において多くの積極的な参加がありました。ワークショップによる計画の策定であったため、計画の作成に約3年余かかりました。当時はワークショップという手法が一般に普及しておらず、ワークショップについての説明会を開催しました。都の環境局に対して、地下水の揚水を届け出ました。調整については特に苦心した点等はないが、ワークショップでの計画の策定では3年余の年月を要し述べ1000人の市民参加を得たところです。 こうした背景から、現在でも住民の関心が高く、月2回、公園ボランティアと称して住民がゴミ拾い等の美化活動を実施しています。</li> <li>・関係主体と主な役割 東京都　：地下水揚水の許可 (財)まちづくり公社（現 ㈱まちづくり三鷹）：ワークショップの主催 周辺住民：ワークショップの参加、清掃活動、イベントの企画 市　　：ワークショップの開催</li> </ul>

効果	ワークショップへの積極的な参加があり、現在でも住民の関心が高く、月2回、公園ボランティアと称して住民がゴミ拾い等の美化活動を実施しています。また、いくつかのイベントも企画し、運営しています。本事業のはしりとなった「わくわくまつり」（毎年10月開催）では、平成18年度で11回を数え2,000人程の参加者が得られ、大変な盛況振りでありました。
今後の整備時・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園用地確保のための土地買収が一部思うようにできませんでした。</li> <li>・仙川と一体となった整備（仙川の左岸側ブロック積護岸の撤去と法面の傾斜と公園の一体化）が可能であれば、親水性も格段に向上したと思われます。</li> </ul>
注目すべき事項	一度失われた水辺の整備を、ワークショップを重ね、整備しました。
リソース提供先	三鷹市都市整備部緑と公園課：（代表）0422-45-1151
参考エッセ	<p>三鷹市 HP:【まちづくりに関する用語集】  <a href="http://www.city.mitaka.tokyo.jp/a014/p027/d02700085201.html">http://www.city.mitaka.tokyo.jp/a014/p027/d02700085201.html</a></p> <p>丸池の里わくわく村 HP  <a href="http://www.mitaka.ne.jp/tmo/town/workshop/maruike/index.html">http://www.mitaka.ne.jp/tmo/town/workshop/maruike/index.html</a></p>